

隠岐島前神楽東京公演

誇るべき島前の伝統 復活、注連行事



石塚代表による「月ノ輪かざし」



夜の研究公演より、莫座舞

11月22日(土)、東京都新宿区の日本青年館大ホールにおいて「第63回全国民俗芸能大会」が行われ、隠岐島前神楽保存会の皆さんが隠岐島前神楽(島根県指定文化財)の公演を行いました。今回は13名が参加し、昼の部と夜の部を合わせて14の演目を披露しました。

特に注目されたのは、4年がかりで昨年復活させた演目『注連行事』(※表紙の写真)です。注連行事は本来、巫女が神名帳を読みあげて神勧請を行い、最後に神懸かりとなつて神託を述

べますが、現代ではその形式のみとなっています。長い台詞を唱える巫女の役は、増谷実香さんが演じました。なおこの大会は、全国各地の民俗芸能をPRするため毎年行われており、昨年は神楽特集として島前以外にも3つの社中が登場しました。他の地域の神楽と競演することで、隠岐島前神楽の独自性がいつそう際立ち、その魅力を東京の大舞台で存分にアピールできたようです。

演者の皆さん、長時間にわたりお疲れさまでした。

潮風ファーム 躍進続く!

10月17日(金)、東京食肉市場において、「しまね和牛」の肉質を審査する枝肉共励会が開催され、県内7市町村8農場が育てた黒毛和牛48頭の中から(有)隠岐潮風ファームの出品牛が『最優秀賞』に選ばれました。潮風ファームの出品牛は、これまで競り単価で最高値を出し続けていましたが、最優秀賞を獲得したのは6年目にして初めてです。格付はA5、BMS(※)No.11、枝肉重量402キログラム、競りでは1kgあたり3407円で落札されました。



また潮風ファームは、10月25日(土)に島根中央家畜市場で開催された島根県種畜共進会に初めて隠岐代表として出場しました。出品牛の「ふじみち2の2」号は4区(平成25年8月31日以降出生)に出場し、雌牛20頭の中から選ばれた「秀賞」12頭のうち、11番目の成績となりました。目標としていたブランドチャンピオンには残念ながら届きませんでしたが、来年も隠岐代表牛がこの海士町から選出され、県でもブランドチャンピオンを獲得することを期待します。

(※)BMS(ビーフ・マーブリング・スタンダード):牛肉の霜降り(サシ、筋肉に沈着する脂肪)の度合いを示す判定基準で、脂肪交雑基準ともいう。12段階で5~1の5等級に区分され、No.11は最高の等級に入る。

『頑張っているリーダー』 隠岐の畜産を牽引!



「皆さんのおかげです」と戸鳴さん。御祝いの2.5升瓶と共に

経営規模、飼育技術ともに隠岐を代表する農業者である戸鳴正史さん(保々見区)が、島根県が表彰する『農林水産業で頑張っているリーダー』の一人に選ばれました。これは、県内で

農林水産業に携わり創意工夫をこらして成果を出している各団体のリーダーを県知事が表彰するもので、今回は戸鳴さんを含め7人が受賞し、11月21日(金)に県庁で表彰式が行われました。戸鳴さんは、繁殖雌牛56頭を飼養して子牛生産を行う認定農業者で、受精卵移植を活用した和牛改良、公共放牧場の利用促進などに取り組んでいます。現在は海士町和牛改良組合長も務め、若手農家への技術指導など後継者育成にも貢献し、畜産振興のリーダーとして一層の活躍が期待されています。

地産地商課では今後も、畜産レベルの向上を海士町からリードしていくことを目指し、牛の増頭を行っていく考えです。町民の皆さまの応援を頂き、隠岐全体の畜産振興、隠岐牛ブランドの確立に努めていきたいと考えています。

(地産地商課 山斗隼人)

元気な海士

パワー溢れる海士人の活動・活躍を紹介！

交流促進型シンポジウム『島会議』in海士 働き方や教育、来島者と島民が意見交換

島から発信！



海士町観光協会が主催する年間シリーズ企画、島会議。この島会議は、島外から著名なゲストや地域づくりに関心の高い参加者を交流会付きのツアー形式で多数招き、来島者と島民が語り合うことで、描きたい島の未来について全国へ発信していく場です。

11月1日(土)、隠岐神社の講堂において今年3度めの島会議「島の暮らしと働き方会議」が行われ、島根県のU・イターン者のほか県外からも多数来島し、70名を越える参加者で講堂は満員となりました。

パネルディスカッションでは、浜田市にUターンして企画会社を起業した三浦大紀さんの他、雑誌「ソトコト」副編集長の小西威史さん、海士町にUターンした藤澤裕介さん(漁協)、宮崎雅也さん(ナマコ加工販売)、松江市の「加島茶舗」を継いだ加島浩介さんが意見交換しました。

仕事の喜びとは何か。地方で働くからこそ得られる楽しさとは何か。地域社会とその中の自分を見つめながらじっくりと、地道に実践を重ねて地域に貢献していく生き方の大切さが、それぞれの視点で語られました。

英語で発表する島前高校生



また12月13日(土)には海士町開発総合センターにて、島会議「島の教育会議」が行われました。

あいにく寒波に見舞われ暴風でフェリーが全便欠航したため会場に来られない人が続出したものの、インターネット中継で松江会場と映像をつなぐなどの工夫を凝らし、不便な状況ながらも熱い議論が交わされました。

島外からは教育関係者や大學生、また地元高校生や教員も参加し、島前高校魅力化プロジェクトのこれまでの成果と課題を共有した他、地域との協働による「グローバル人材」の育成、『島留学』と『寮教育』の組み合わせで実現する新しい全人教育など、この島の教育が目指す未来のイメージが示されました。

★次の島会議「島の環境会議」は1月31日(土)の予定です。

島外でも発信！

離島の祭典『アイランダー』



11月22日(土)・23日(日)の2日間、全国の離島が一堂に会して島暮らしの魅力をもPRするイベント「アイランダー2014」が東京・池袋のサンシャインシティで開催され、海士町も出展しました。

アイランダーは、離島の活性化を図るために毎年行われている大規模イベントで、今年約180の離島がブースを出展。島での生活や観光のほか、求人や学校、行政からの移住支援などについて、各団体が工夫を凝らして情報発信しています。

海士町ブースでは今年、特産品の販売に加えて、福祉系人材の確保に繋げるためのPR活動も行いました。役場健康福祉課や各福祉施設スタッフもキニヤモニヤのハッピを着てブースに立ち、関心のある方と積極的に話をし、島の福祉の現状や課題、どんな想いで仕事をしているかなどを伝えました。

全国の離島はそれぞれに、高齢者福祉や雇用創出などの課題を抱えています。このアイランダーでは島人どうしが共感し、交流を深めることができ、より良い島づくりに向けた前向きなパワーを確認し合える場となりました。

